

法

36

舞鶴鐵道

京都土山

兩線得失比較要領

301157-000-3

法-36

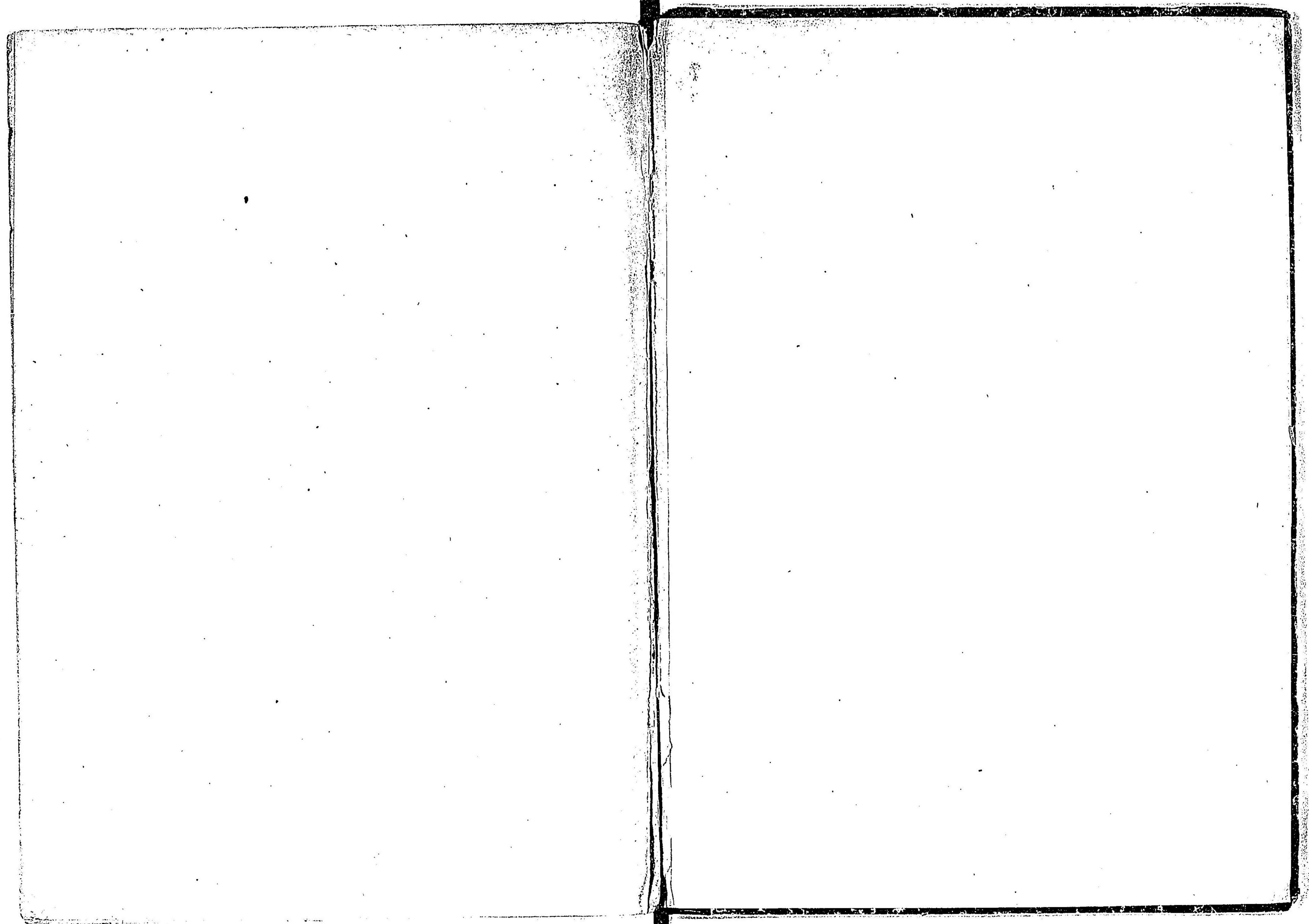
舞鶴鐵道京都土山兩線得失比較要領

佐畑 信之 / 著

M25.11

CDF-0046





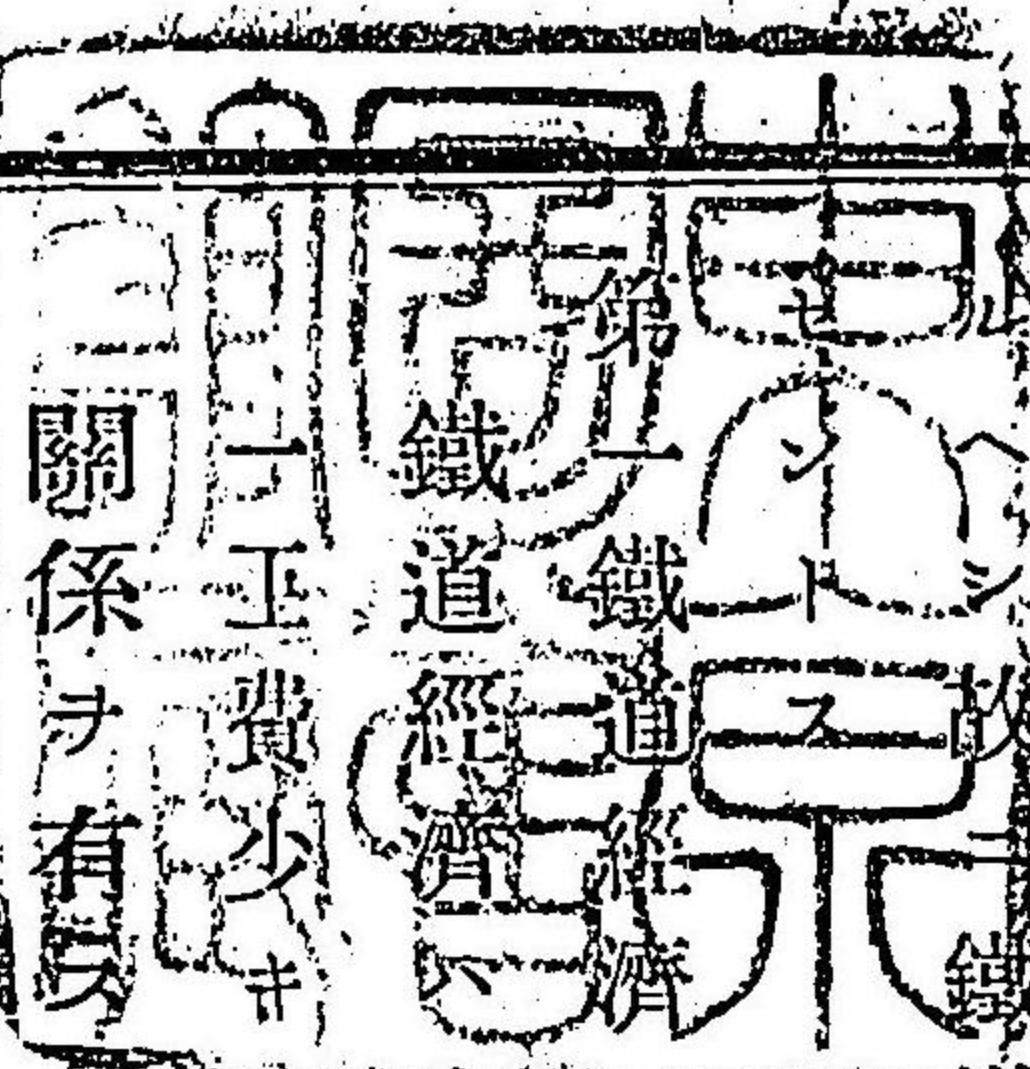
11738/100

舞鶴鐵道 京都 兩線得失比較ノ要領

舞鶴鐵道線當局者調査未タ終局ニ至ラスト雖其實跡及或局外
多年鐵道建築ニ經驗アル某工學士等ノ概測ニ依リ略ホ其梗概
足ル依テ今其要領ヲ舉ケ以テ諸賢ノ參考ニ供シ併セテ採擇ヲ請ハント
ス



鐵道敷設ノ用タル關係甚廣シト雖其大綱ハ經濟軍用ノ二途ニ出テサ
鐵道經濟一般經濟及軍用ノ三項ニ分テ兩線關係ノ如何ヲ論



資本ニ對スル收益利分ノ高キヲ目的ト爲スモノナレハ第
一玉費少キ
第二營業費寡キ
第三收入多キ
ヲ要ス故ニ此三者ニ
關係ヲ有スルモノヲ左ニ掲クベシ

一 工事ノ難易

京鶴線ハ七條停車場ヨリ下嵯峨ニ至リ大堰川(一名保津川)沿岸ヲ溯
ボリ龜岡ニ出テ鳥羽殿田胡麻本庄及山家綾部近傍ヲ經舞鶴ニ達ス
此哩數凡五拾八哩即今園部須知ヲ經過セントシテ調査中ナリ同所

ニ迂回スレバ尙數哩延長シ且難所アリ其間龜岡近傍ヲ除ク外概テ山間窮谷ニシテ大堰川沿岸凡五哩ハ悉ク急峻ナル山腹ヲ切取り或ハ隧道大小五ヶ所延長凡壹哩餘橋梁等ヲ架スル大難所ニ係リ鳥羽殿田ノ間ニモ三大橋ト凡三十鎖ノ隧道ヲ要シ尙胡麻山家間凡貳拾哩ハ土地起伏甚々急ニシテ且無數ノ深溪ヲ踰ヘ斷崖ヲ毀テ隧道三ヶ所延長七拾鎖ヲ鑿テ橋梁ヲ架スル等工事甚困難ナリ又綾部舞鶴間ノ眞倉峠ニ二個ノ隧道延長凡三拾五鎖ヲ要ス

土鶴線ハ土山停車場ヨリ小野社柏原福知山綾部等ヲ經京鶴線ニ合シテ舞鶴ニ達ス此哩數凡六拾貳哩實測未濟ニテ確實ヲ得サレモ技師ノ見込ニテハ六拾貳哩内外ナラント云ヘリ此間京鶴線ト合同シタル眞倉峠ニ隧道ヲ要スルノミニテ其他全線土地開濶平夷最高處ニシテ海面ヲ拔ク僅ニ三百尺餘ニシテ工事ノ困難ナルモノ一モコレナシ第一期鐵道線中此ノ如ク地理平坦ニシテ工事ノ容易ナルモノハ少ナク又我國南北海間ノ幅員狹ク且坦夷ナルモノ他ニ其比ヲ見スト云フ

二 勾配並屈曲ノ緩急多少

勾配並屈曲ノ緩急ト多少ハ鐵道經濟ニ大關係ヲ有ス如何トナレハ勾配急ナレハ強度ノ瀧力ヲ用ユルモ猶進行遲緩ニシテ且數十輛ノ客車貨車ヲ連結シ多クノ旅客物貨ヲ積載スルヲ能ハス又鐵道ヲ破損シ易ク屈曲ノ急ナルモ亦コレニ準ス爲ニ日常ノ營業費ヲ增加スル鮮少ナラサレバナリ況ンヤ其個所多キニ於テナヤ

京鶴線ハ大堰川沿岸ニ五十分一内外胡麻山家間處々ニ七十分一乃至五十分一眞倉ニ凡七十分一ノ勾配ヲ免カレス又全線地理概テ窮屈ナルヲ以テ極度ノ屈曲ヲ用フル箇所甚多シト

土鶴線ハ眞倉ニ凡七十分一ノ勾配アルヲ最急トシ其他ハ概テ百分一若シクハ百五十分一内外ナリト而シテ全線開濶平夷ナルヲ以テ屈曲モ亦少シト云

三 工費及營業費ノ多寡

京鶴線ハ土鶴線ニ比シ其哩數ニ於テ凡三四哩短シト雖モ工事甚困難ナルヲ以テ費額頗ル多ク即今調査中ニテ未タ確實ヲ得スト雖モ是迄或局外技師及工學士等踏査スル所ニ依レハ總費額參百貳拾萬圓以上ヲ要スヘント云ヘリ

京鶴線營業費ニ於テハ勾配並屈曲ノ急ナルモノ多キヲ以テ日常瀛車運轉費修繕費ニ要スル金額鮮少ナラサルナリ
 土鶴線ハ工事最モ容易ナルヲ以テ工費隨テ少ク局外技師工學士等踏查ノ積算ニテハ總額貳百五拾萬圓ヲ出テサルヘシ
 土鶴線ハ勾配緩ニ屈曲少キヲ以テ京鶴線ニ比シ營業費ノ少キ言ヲ俟タサルナリ

四 收益ノ多少

客車及貨車賃ノ收入ハ一般經濟ニ相伴フモノナレハ該項論述スル所ニ依リ判斷スルコトヲ得ヘシ土鶴線ノ京鶴線ニ優ルコト毫モ疑ナキ所ナリ

第二 一般經濟

一般經濟ノ關係ニ外國內國地方ノ三種アリ其種別ニ依リ一々比較ヲ列擧スヘシ

一 外國ノ關係

一般經濟ノ關係タル鎖國ノ時ト大ニ其情態ヲ異ニシ今日ニ於テハ外國ニ對スル貿易事業最モ重要ノ位置ヲ占メ將來益發達スヘキハ

勿論ナリトス故ニ舞鶴鐵道ノ如キモ第一開港場ニ接近連絡スルコトヲ務メザルベカラズ

京鶴線ハ神戸港ニ達スル百六哩以上ニシテ土鶴線ハ凡八拾哩ニ過ギズ殊ニ其勾配甚緩ナルアリ又舞鶴港ハ我國無比ノ良港ナレバ西伯利亞鐵道成功ノ場合ニ於テ浦潮斯德港ト直航ヲ開クニ至ルベシ若シ果シテ然ラハ神戸港トノ關係益密ナルハ言ヲ俟タサルナリ

二 內國ノ關係

內國商業ノ中心ハ大坂ニ在リ而シテ神戸ハコレト接近シテ密接ノ關係ヲ有シ且神戸港ハ關西ノ咽喉海陸輻湊ノ衝ニアレハ内外往來ノ旅客物貨等一ニ同港ヲ經由スルヲ以テ同港ニ接近スルコト必要ナリ又日本海沿岸ノ米穀海產物類下ノ關ヲ回航シテ兵庫神戸大坂等ニ運送スルモノ甚多シ是等ノ物品敦賀鐵道アルモ其距離遠隔運賃高キヲ以テ之ヲ利用スルコト鮮カリシニ土鶴鐵道ハ僅六拾哩内外ニテ南北海ヲ連絡スルコトナレハ將來大ニ本線ヲ利用スルニ至ルベシ況ンヤ大坂ニ至ルモ京鶴線ト大差ナク假令少差アルモ勾配緩ニシテ進行迅速ナルノ便アルニ於テナヤ

三地方ノ關係

三丹及ヒ東播地方ノ物産ハ米穀茶生絲ヲ主眼トシ海産物木材牛等
之ニ次ク而シテ其送先ハ概テ左ノ如シ

米穀、多クハ兵庫神戸灘大坂ニ送り内外ニ輸出シ或ハ消費ス

茶、悉ク神戸港ニ於テ外國ニ輸出ス

生絲神戸港ニ於テ若クハ同港ヲ經横濱港ニ於テ貿易ス但下等絲

少許ハ京都織物用ニ供ス

海産物、食用ノ分ハ丹波山城播磨等ニ送り下ノ關回航ノ分ハ兵庫

大坂ニ致ス

木材、多ク神戸大坂ニ送り京都之ニ次ク

牛、神戸若クハ攝津紀伊ニ送ル而シテ概テ但馬ヨリ丹波西部ヲ通

過ス

以上ノ關係ナルヲ以テ京鶴線ヨリハ土鶴線ニ依ルヲ便トスルモノ
甚多ク又三丹需用ノ物品十ノ六七ハ之ヲ大坂ニ仰キ神戸京都之ニ
亞ク凡物貨出入多寡ノ一斑ヲ徵スルハ瀛車運送物貨額ホト正確ナ
ルモノナシ然ルニ大坂神戸兩市ヨリ出入スルモノハ極テ多ク京都

ハ誠ニ寥々ナリト云其實數ハ追テ調査表明セントス

又京鶴線ハ龜岡近傍ヲ除ノ外悉ク狹隘ノ溪谷ニシテ沿道戸口物産
少ク鐵道ヲ利用スルモノ極メテ乏シ之ニ反シ土鶴線ハ沿道概テ開
濶戸口稠密物産ニ富ミ又開墾シ得ヘキ廣原大野多ク殊ニ三丹旅客
物貨集散ノ衝タル福知山ノ本線ニ係ルアリ

京鶴線ノ内國道ニ係ルモノハ京都府近年莫大ノ費金ヲ投シテ車道
ヲ設ケ運搬ノ便ヲ圖リシト又三丹ヨリ京都ニ往還スルハ悉ク此一
道ニ集ルノ地理ナルトヲ以テ龜岡園部近傍旅客運荷少ナカラサル
ノ觀アルモ鐵道布設ノ上其増加ヲ見ルハ至テ少ナカルベシ之ニ反
シ土鶴線ハ從來縣道ナルモ舞鶴間ノ連路十分開ケス修路完タカラ
ザルト加古川ノ左右ニ二條ノ縣道アリ猶其西ニ福知山姫路間ノ往
還二線アリ又東ニハ有馬郡及川邊郡ヲ經神戸大坂ニ出ツル二條ノ
縣道アリ又加古川ノ舟運アルヲ以テ其一道ニ係ル旅客運荷ハ甚タ
多カラサルカ如キモ一朝鐵道布設ノ上ハ水陸七線路ノ旅客運荷概
テ本線ニ吸集スルヲ以テ將來増加スルノ幾倍ナルヲ知ルヘカラサ
ルナリ

土鶴線ノ起點タル土山ニアレトモ同所ハ畢竟接續場タルニ過キス起點ノ必要ハ全ク神戸港ニアルヲ以テ同港ヨリ直ニ舞鶴ニ達スル鐵道ヲ布設スルコト當然ナレトモ六甲山脈ニ遮キラレ地理宜シキヲ得ス而シテ土鶴線ハ無比ノ良線ナルヲ以テ山陽鐵道ヲ利用シ少シク迂回シタルモノナルヘシ抑神戸港タル維新前ハ寥々タル村落タリシニ開港以來戸口日ニ増シ明治十六年一月ニハ五萬四千人餘ナリシニ昨年十二月ニハ拾四萬千人餘トナルニ至ル既往ノ沿革ヲ以テ將來ヲ推セハ數十年後ノ繁榮誠ニ想像シ得ヘカラス隨テ同港ノ内外ニ對スル經濟ノ關係至大ナルヘキハ疑ヲ容レサルナリ故ニ鐵道敷設ノ如キ宜シク將來永遠ノ利害ヲ想察シ大計ヲ定メサルヘカラス以上諸項ノ事實ニ於テ若シ疑フ人アラハ請フ實地ニ就キ觀察スル所アレ猶沿道ノ戸口物産及旅客物貨ノ員數ノ如キハ目下調査中ニ付不日別冊ヲ以テ表明スベシ

第三軍用

近頃陸軍參謀部將校ノ說ニヨレハ神戸明石間沿海ノ鐵道ヲ危險トシ軍用ニハ京鶴線ヲ必要トスルガ如シ然レトモ神戸明石邊ハ内海ニシテ

殊ニ紀淡海峽砲臺ノ防禦線内ニ屬シ且有事ノ日ハ海陸軍ノ應援ヲモアルベキナレハ危險ノ憂ナカルベシ若シ猶之アリトスレバ東京灣ニ沿フタル東京近傍ノ鐵道モ同一ニシテ軍用ヲ爲サズト云ハザルベカラズ猶之ヲ極論セバ砲臺モ海軍モ頼ムニ足ラズトシ爲ニ巨額ノ費金ヲ投スルニ及ハス之ヲ内地ノ軍用鐵道ニ轉用スベシト云ニ至ラン豈如此理アラシヤ又軍用強チ東方ノミノ連絡ニ限ルモノニ非ズ西ニモ廣島熊本ノ師團姫路高松等ノ衛戍アレバ是亦宜シク連絡スベキナリ加之軍用ハ一時迅速ニ多クノ兵士及輜重ヲ運送セザルベカラズ然ルニ京鶴線ハ勾配急ニシテ屈曲亦多シトノ事ナレバ十分ニ其用ヲ爲シ難カルベシ又鐵道ノ軍用ハ獨リ陸軍ノミナラズ海軍モ亦緩急之ヲ利用スルコト少ナカラサルベシ西ニ吳佐世保ノ二鎮守府アリコレト水陸連絡ヲ要スヘク又海軍ハ日常軍艦ノ運動ヲ專ラトスレトモ一朝事アルノ日ニ當リ神戸舞鶴兩港ニ輻輳スルトセンカ下ノ關ヲ回航スルニ遑アラザル時ハ勢ヒ短距離ノ鐵道ニ依リ互ニ往來運送スルノ必要ヲ生ズベク兵器糧食等ニ於テハ殊ニ然リ又水雷艇ヲ陸運ニ付スルカ如キハ最モ緩勾配ニシテ屈曲少キ鐵道ナラザルベカラザルヘシ

神戸明石邊海岸鐵道ノ軍用上危険ナシト信スルト前述ノ如シト雖モ陸軍ニ於テ猶内地ノ縱貫線ヲ必要トスレバ京都ヨリ龜岡園部篠山ヲ經氷上郡久下村ニ於テ土鶴線ニ接續スベシ本線路ハ既ニ當局技師及某工學士等踏査シテ敷設困難ナラサルヲ明言シタルモノナリ如此接續セバ京都ヨリモ舞鶴及姫路地方ニ交通往來ノ至便ヲ得ルハ勿論線路ノ通過スル所丹波ニアツテハ龜岡園部篠山柏原福知山綾部播磨ニテハ社小野等戸口稠密物産繁多ニシテ地勢開濶ナル所悉ク經過スルトトナリコレヲ京鶴線ヲ敷キ其線中園部ヨリ分岐シテ姫路ニ達スル縱貫線ヲ設クルモノニ比セバ線路坦易ニシテ將來鐵道ノ運輸上又軍用上完備ヲ得且工費ヲ減シ又經濟ノ利用ニ於テ大ニ優ル所アルベシ如何トナレバ園部綾部間ノ險難ナル窮谷ニ換フルニ久下綾部間ノ平夷開濶ヲ以テスルノミナラズ久下綾部間ニハ柏原福知山等皆電信局アリノ都會ヲ始メ戸口物産最モ多キ部分ヲ包含スレバナリ但土山ハ明石海峽ノ西ニアツテ姫路ニ接近スレハ直ニ姫路ニ接續スルト同シク海岸危険ノ憂ナキヲ信セリ又陸海軍兵神戸港ヨリ上陸シ或ハ同港ヨリ乘艦スルト甚タ多カルヘ

第四結論

シコレ亦軍用上神戸港ニ接近ヲ要スル一理由ナルベシ
京鶴土鶴兩線ノ得失ハ前述ノ如ク鐵道經濟ヨリスルモ一般經濟ヨリスルモ將タ軍用ヨリスルモ土鶴線ノ京鶴線ニ優ルト誠ニ明白ナリト信セリ殊ニ目下ノ急務ハ經濟ヲ先ニシ國力ヲ發達スルニアルベシ國力發達センカ國防ノ事業之ヲ爲スニ難カラス假令國防ヲ完備スルモ國力衰耗セハ何ヲ以テ能ク國ノ獨立ヲ保維スルトナリ得ン然ルニ土鶴線ハ最モ能ク經濟上ノ効能ト軍用ヲ兼備スルモノナレバ之ヲ採擇シ速ニ其敷設ヲ圖ルハ國家ノ大計上誠ニ當然ノ措置ナルヘント思惟セリ識者幸ニ鑑別スル所アレ

3/35

明治廿五年十一月廿四日印刷
明治廿五年十一月廿五日出版

(非賣品)

著者 正六位 佐畑信之

兵庫縣神戸市北長狹通五丁目
四拾八番地住士族

發行者 山下銀四郎

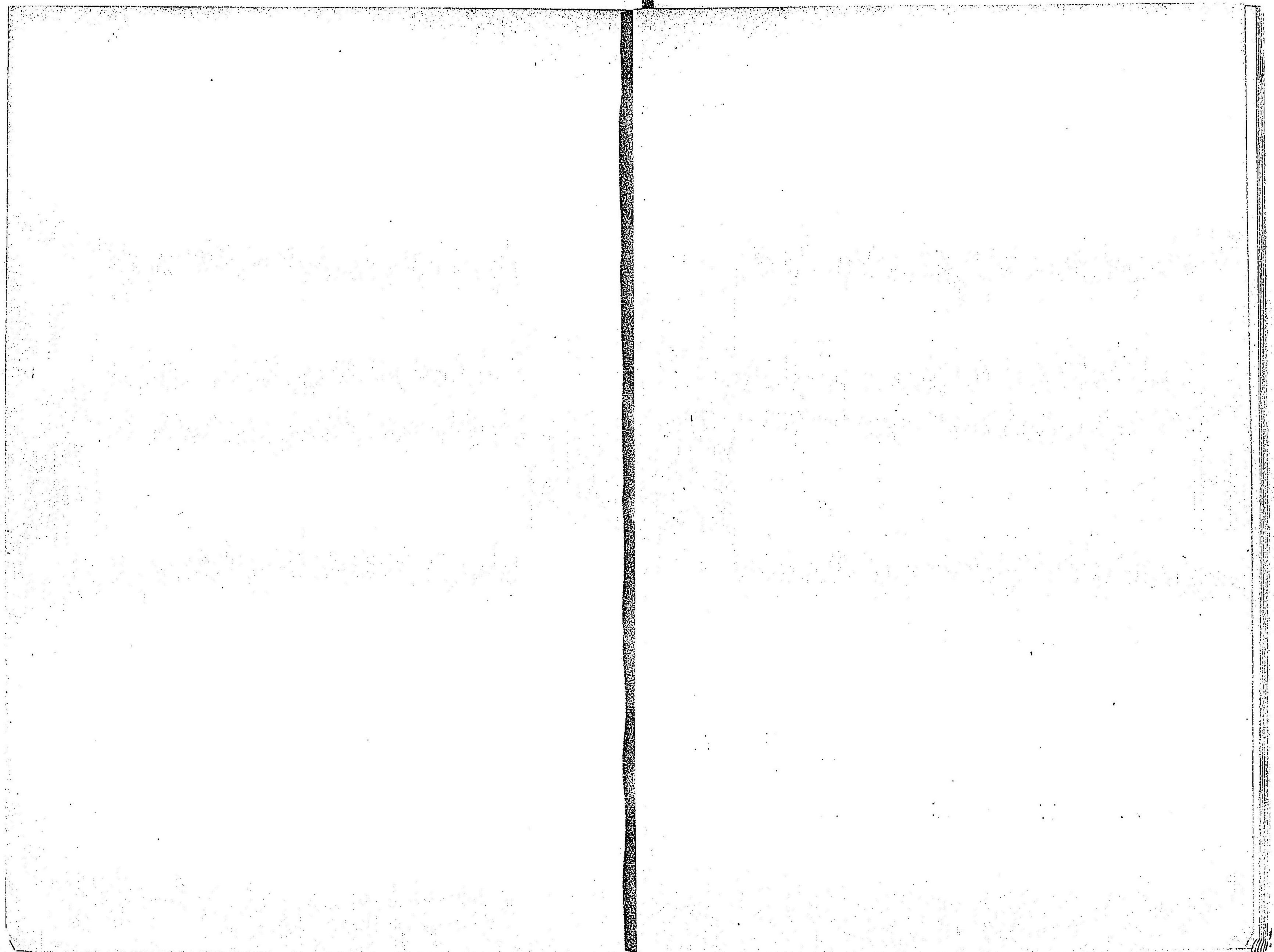
兵庫縣水上郡沼貫村之内朝坂村
六拾貳番地住平民

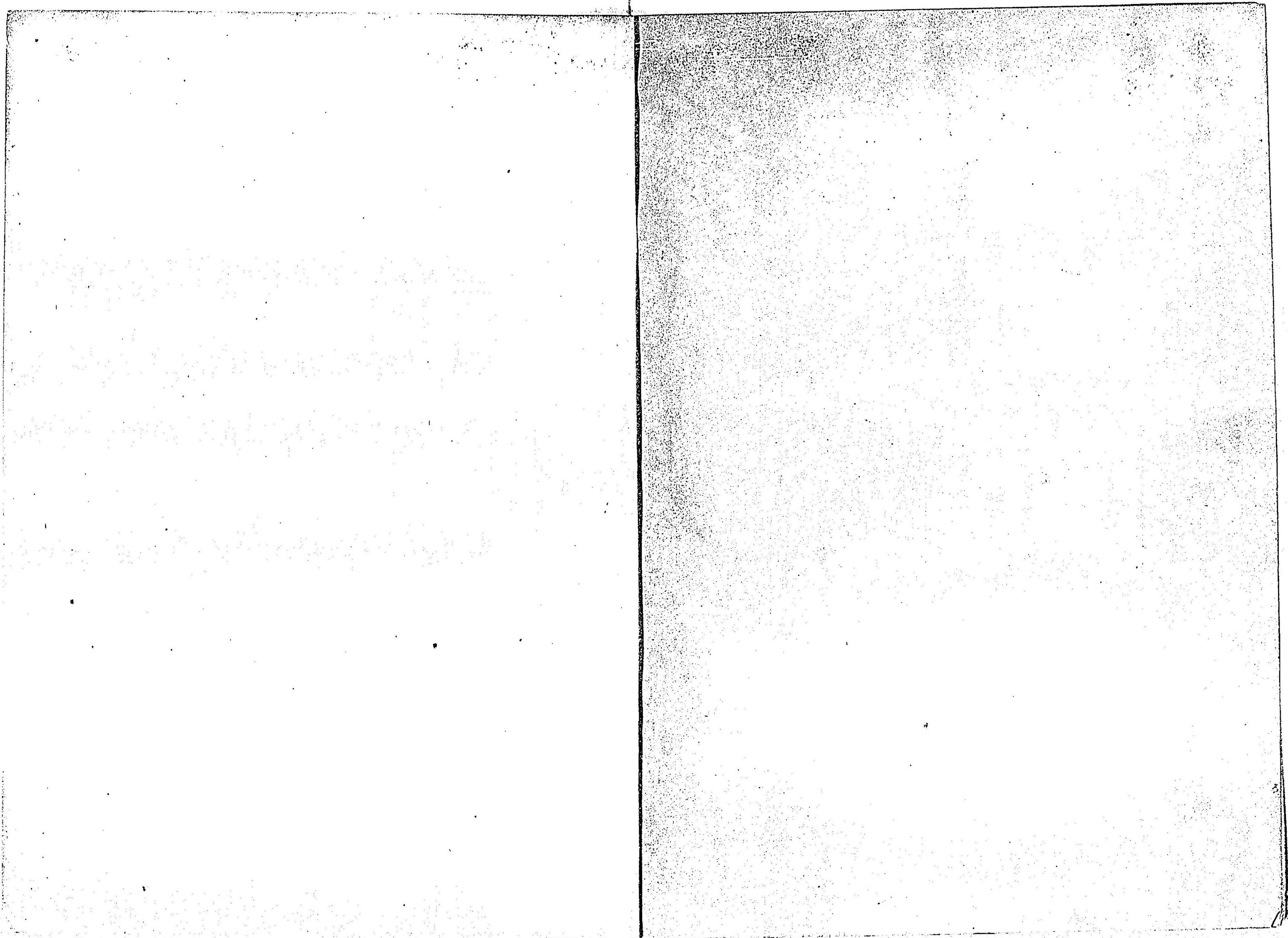
印刷者 安野宗吉

東京市京橋區北紺屋町三番地寄留
新潟縣士族

印刷所 大成社

東京市京橋區北紺屋町三番地





| |
|----|
| 法 |
| 36 |

